

## 日本研究皮膚科学会「JSID の今後の 5 年を考える」

2018 年 11 月 30 日、第 173 回日本研究皮膚科学会理事会において、2 時間にわたり、各委員会に検討していただいた「JSID の今後の 5 年を考える」をもとに議論を行い、最終的にまとめを行いました。私としては、2017 年 12 月に理事長に就任後、1 年が終了する時点で、理事・若手理事全員で議論をしっかりと行いことで、JSID の 5 年後を考え、そのまとめと今後の方向性をしっかりと決めておくことを主眼としました。

以下の 4 つが、私の理事長任期期間のスローガンです。本スローガンは、基本的には佐藤伸一前理事長と同じであり、若手育成、国際化、財政基盤の安定化は継続的に、さらに、アジア・オセアニアを皮膚科学研究で結んで行くことを新たに掲げています。

1. **Inspiring and energizing the next generation** (若手・次世代育成)
2. **Stabilizing financial base** (財政基盤の安定化)
3. **Supporting development of investigative dermatology throughout the world** (国際的な皮膚科学研究の発展をめざす)
4. **Bridging Asia/Oceania in investigative dermatology** (アジア・オセアニアを皮膚科学研究でつなぐ)

JSID 事務総長(ISID 準備員会委員長)として、第 1 回 ISID2023 の東京開催の誘致に成功しました。これから 4 年間、国際的な皮膚科学研究の発展、さらにはアジア・オセアニアの皮膚科学研究を大きく発展させるためにも、ISID2023 の成功は必須であり、学会はもちろんのこと、この過程においても、アジア・オセアニアの多くの研究者と一緒に考え、一緒に作り上げていくことが大切と思います。JSID がアジアの中心という考えではなく、JSID が、アジア・オセアニアを皮膚科学研究でつなぐ、大きな役割を果たすべきだと思います。

皮膚科の重要性を考える上でも、国際誌を持っていること、皮膚科医のみならず、基礎研究者を含めた学会であり、英語で年次大会を行っていることなど、JSID は先駆性が高く、JSID の役割は今後益々大きくなっていくことが予想されます。今回の「JSID の今後の 5 年を考える」が、大きな方向性をあたえることは間違いのない事実であり、今後も、JSID は発展を続けて行きます。

JSID がこれまでのように発展するためには、皆様方のご協力が必要不可欠です。どうぞ JSID の発展に暖かいご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和元年 8 月

理事長 森田明理

## 学術委員会に関する提言

JSID では、現在、JSID 賞やポーラファルマ rising star award などが設けられているが、これらはかなり establish された研究者が対象になっており、若手の身近な目標にはなりにくい。publish された単発の論文についての賞は、皆見賞やマルホ賞（旧ガルデルマ賞）をはじめとしていくつか存在しているが、継続したパフォーマンスを評価する賞は存在しない。したがって、若手研究者の皮膚科研究をさらに活性化するためには、過去5年間のベストパフォーマンス賞の意味合いをもつ「JSID 賞の小型版（若手版）」が有効ではないかと考える。

### 1. 「若手 JSID 賞」の規定

- 日本研究皮膚科学会員であり（3年以上）、JSID 賞を受賞していないこと。
- 年齢：45歳以下、教授を除く。
- 基準：過去5年間のベスト論文5本のリストを提出してもらい評価、first author や second author に重みをつけて採点。ただし、5年以上前の論文もある程度評価できる手立てを考える。JSID での発表回数についても評価する。
- 毎年3名、ただし同一施設からは1名まで。
- ダイバーシティに配慮する。特に女性は原則として1名以上選出するようにする。
- 賞金10万円（一人あたり）。
- 年次大会で発表の機会があるとよいが、時間の制限もあるので、ポスター会場での発表と表彰にするなど、表彰方法は今後検討する。

## 推薦委員会に関する提言

### 1. 理事（若手理事を含む）の選考に関して

- 応募書類に、業績を記載したものや推薦書等に加え、理事としての抱負を加える。
- 推薦委員会では、応募書類をもとに多様性を十分配慮し、選考理事数の2倍程度の候補者を理事会に推薦する。

### 2. 理事の中の基礎研究者の定数に関して

- 学会の活性化のために基礎研究者の理事を増やす。今年度、基礎研究者の理事を1名増やす一方、皮膚科医の理事の数は据え置く。
- 基礎研究者が中心となったセッションを、年次総会のプログラムに組み入れることを積極的に進める。

## ダイバーシティ委員会に関する提言

学会員のダイバーシティをより高めることにより学会内で独創性、新規性の高い研究、(AMED に応募できるような) 多領域にまたがる大型のプロジェクトが発展することが期待されます。このための具体的方法として以下を提案します。

### 1. 異分野の研究者の交流や接点を増やす

- 基礎研究のシンポジウムのような皮膚科医、基礎研究者の両方が興味を持つことができ、若い人を惹きつけるようなシンポジウム、創薬系のセッションなど、学会構成員のダイバーシティ向上に繋がるセッション(ポスターセッションを含む)を年次大会会頭に積極的に取り入れていただく。

### 2. 評議員のダイバーシティを高める

- 女性評議員比率が 30%以上になるまでダイバーシティ委員会が女性候補を発掘し推薦する。
- 基礎研究者も積極的に発掘し、評議員に推薦する。

### 3. JSID 会員ならびに国内外にダイバーシティ向上が本学会のこれからの進むべき方向であると知ってもらう

- 学会として 2023 年までに女性評議員の割合を 30%にすることを目指します、と数値目標を公開する。
- 年次大会における座長、シンポジウムの演者などの性比が極端に偏らないように配慮する(一方の性比が 30%以下にならないように努める、等の目標値を定める)。
- 年次大会もしくはサテライトミーティングで、ダイバーシティ問題の専門家による講演、アジア各国の参加者主体のフォーラム等を取り入れる。

### 4. あおば塾やきさらぎ塾の講師や参加者の選任にあたりダイバーシティを考慮する。

- チューターの性比の偏りを減らす。
- 参加者の男女の比率が極端に偏らないように定員オーバーした場合は少ない方の性の参加者を優先する。
- 育児中の講師や塾生も参加しやすいような配慮する。

### 5. ダイバーシティを考慮した学会主導研究の推進

- 学会主導で(大型) 研究を提案する場合、担当者の選任にあたってはダイバーシティを考慮する。

## 若手セミナー委員会に関する提言

### 1. 若手セミナー委員の活動と現状

- 今年度、きさらぎ塾は第 11 回を迎えます。きさらぎ塾はこれまでの経験の集積から、留学前の若手研究者や大学院生の交流とキャリアアップ支援に貢献してきました。また、8 月には第 3 回あおば塾が開催され、大学院進学前の皮膚科医に研究の面白さを伝えることで、多くの塾生があおば塾の参加を契機に大学院に進学したと聞いています。例年、きさらぎ塾、あおば塾ともに定員を超える申し込みがあり、多くの塾生にとって今後の研究者人生における貴重な経験となったと感じています。

### 2. 今後の課題と目標

- 2023 年 ISID の東京開催に向けて、JSID 若手セミナー委員はアジア全体の若手皮膚科研究者の教育に関して先導する立場になるべきと考えています。日本のみならずアジア全体の若手皮膚科医の教育およびキャリアアップ支援を行い、日本の皮膚研究分野の更なる国際化に貢献したいと思います。

### 3. 具体的な提案

- 2020 年度に Asian-Kisaragi を行います。
- 場所：名古屋
- 時期：2020 年 12 月
- 期間：1 泊 2 日
- 内容：きさらぎ塾のスケジュールを元に若手セミナー委員で計画する。
- 備考：KSID、TSID、CSID などのアジアの研究皮膚科学会からチューター参加（事前にきさらぎ塾にオブザーバーとして参加してもらう）
- 森田理事長、椛島事務総長を含め若手セミナー委員で具体化していき、理事会での承認を得て実施する予定です。

## ISID 開設準備委員会に関する提言

最重要課題は ISID の成功（プログラムの内容、参加者数の確保など）

### 1. アジアのリーダーとして発展・サイエンスの強化

- Asian Kisaragi 塾の開講の可能性の検討—これを介して ISID への関心を高める。
- 即効性のある方法（名誉会員を増やすなど）と長期的な方法（Asian Kisaragi 塾などで若手の人的交流を深めるなど）を並行して実行
- KSID、TSID との関係強化（理事や評議員などで参加者数などの具体的な数値を設定し、役割分担）
- 特色あるシンポジウムを JSID 総会で企画

### 2. ダイバーシティの強化を通じて ISID への参加者の増加

- 理事と国際学会対応 role の分離：国際学会への対応は人間関係の構築などに長い時間が必要で新しく人材を育成するためには理事任期以上の時間が必要。こうした人材は必ずしも学会運営自体にかかわる理事である必要はなく、学会としてある程度オフィシャルなポジション（JSID アンバサダーなど）を創設
- JSID 内における PhD の増加： PhD からのヒアリングを実施
- JSID における PhD 向けの疾患メカニズムなどの review talk
- シニアな先生の理事会参加：IID2008 を経験されたシニアの意見を取り入れるシステムづくり

### 3. ISID への参加者を増やすための Physician scientist の数の増加

- 大学院卒業して間もない人を対象とした研究費の開設
- 留学先の斡旋：大学間を超えて（学会で）行う
- 意見交換がしやすい雰囲気の研究會

### 4. ISID を成功させるための財政基盤の確立：

- 募金活動
- 学会所有のキャッシュをきちんと積み上げておくプラン作り
- 理事や評議員による寄付依頼の作業分担
- 募金活動のための international financial team の創設の検討
- JDA との連携の強化

5. **ISID への参加者を増やすための海外交流や海外会員数の増加**

- Collegiality award などの交換プログラムの推進
- 海外会員の会費の見直しや Joint membership program の検討
- KSID、TSID、ASDR などへの JSID からの定期的な参加
- 海外との定期的な合同研究会の開催（Singapore-JSID joint meeting 2019 など）
- 年次大会時に会議の定期開催

6. **その他の課題**

- Social gathering などの場所の選定
- ポスター会場などのスペースの確保